

婦人科

1. 婦人科の平成 26 年活動概要と特徴等

全国的な産婦人科医不足のもと、平成 18 年 1 月より婦人科医一人体制による診療活動を行っている。一人体制での診療を余儀なくされているが、悪条件下で診療活動ができるだけ維持されるように努力した。また、引き続き院内外科系各科（救急、外科）との連携を行った。

2. スタッフ

部長 神田 裕樹（日本産科婦人科学会専門医、母体保護法指定医）

3. 平成 26 年診療実績及びその評価

A 手術に関して

平成 26 年 1 月から 12 月までの総手術例数は 81 例（平成 25 年：70 例）であった。このうち悪性腫瘍および上皮内腫瘍に関する手術例数は 21 例（平成 25 年：21 例）であり、全手術症例の 26%（平成 25 年：30%）であった。内訳は子宮頸癌または上皮内腫瘍 12 例（平成 25 年：15 例）、子宮体癌 3 例（平成 25 年：4 例）、卵巣癌（低悪性度腫瘍を含む）5 例（平成 25 年：2 例）であった。子宮頸部上皮内病変に対する観血的治療（円錐切除術、LEEP、焼灼術）は 12 例（平成 25 年：11 例）で、全手術症例の 15%（平成 25 年：16%）であった。なお、死亡例、術後後遺症例などの重大な有害事象は発生しなかった。

また、良性疾患に関する開腹手術数は 18 例（平成 25 年：23 例）であり、子宮または筋腫摘出術は 16 例（平成 25 年：17 例）、卵巣または嚢腫摘出術は 9 例（平成 25 年：17 例）（子宮の手術との重複有り）であった。なお、死亡例、術後後遺症例などの重大な有害事象は発生しなかった。

腹腔鏡による手術例数は 8 例（平成 25 年：8 例）であり、全婦人科手術症例の 10%（平成 25 年：11%）であった。対象疾患は良性卵巣腫瘍 5 例、子宮内膜症 4 例であった。手術内容は付属器摘出術 4 例、卵巣嚢腫摘出術 4 例、付属器癒着剥離術および子宮筋腫切除術 1 例であった。なお、死亡例、術後後遺症例などの重大な有害事象は発生せず、開腹移行症例は 0 例であった。

子宮鏡による手術例数は 19 例（平成 25 年：9 例）であり、全婦人科手術症例の 23%（平成 25 年：13%）であった。対象疾患はポリープ病変 9 例、子宮筋腫 6 例、その他 4 例であった。手術内容はポリープ切除術 9 例、筋腫切除術 6 例、子宮内膜焼灼術 6 例（重複有り）であった。なお、死亡例、術後後遺症例などの重大な有害事象は発生せず、開腹移行症例は 0 例であった。

当院が力を入れている救急症例に関して、中場外科主任部長兼救急センター長の協力の下に、平成 26 年は 2 例（平成 25 年は 3 例）（過多月経による出血性貧血 1 例、卵巣癌腹水貯留高度 1 例）の緊急手術を行った。

B 婦人科検診および婦人科精密検査に関して

平成 26 年 1 月から 12 月までにスクリーニング目的で施行した子宮頸部細胞診の例数は 902 例（平成 25 年：1111 例）であった。このうち総合検診のオプション検査での例数は 505 例（平成 25 年：597 例）、国家公務員共済組合連合会関連の委託検査での例数は 274 例（平成 25 年：381 例）、他施設からの委託例数は 123 例（平成 25 年は 133 例）であった。

平成 26 年 1 月から 12 月までに施行した子宮頸部細胞診の異常に基づく精密検査（コルポスコピーおよび狙い組織診）の例数は 126 例（平成 25 年：106 例）であった。対象疾患は子宮頸部軽度異型上皮 67 例、中等度異型上皮 33 例、高度異型上皮 16

例、上皮内癌1例、子宮頸癌1例、その他の病変8例であった。

4. 各診療科・センターの特筆すべき事項

現在のところ常勤医師一人体制で診療のため、悪性腫瘍の治療や腹腔鏡手術は医療安全管理の観点から症例を十分に検討した上で、安全性の上から可能と判断した症例にのみ施行している。良性疾患に対する開腹手術、子宮鏡手術、円錐切除術などは一人体制でも十分に対応できている。

5. 平成26年の目標達成度

A 紹介患者数の対前年維持

平成25年の紹介患者例数は197例であるため、平成26年の目標紹介患者例数は197例であるのに対し、平成26年の実績は合計257例であり、その達成度は130%であった。

B 手術例数の対前年維持

平成25年の手術例数は70例であるため、平成26年の目標手術数は70例であるのに対し、平成25年の実績は合計81例であり、その達成度は115%であった。

6. その他

シンポジウム

第7回日本医療マネジメント学会 大阪支部学術集会 シンポジウム3 「みんなで取り組む医療安全～医療事故を未然に防ぐために～」 「みんなで行う医療安全活動～大手前病院の取り組み～」 神田裕樹 （於新大阪丸ビル別館、2014/2/15）

また、平成26年は大阪医専において、疾病治療学（女性生殖器障害）について12回（90分x4回、3クラス）の講義を行い、同校学生の看護教育に携わった。

※ 以上の項目は最低網羅してください。